

子宮頸がんワクチン  
被害者連絡会が発足

子宮頸(けい)がん予防ワクチンを接種した後、歩行困難などの重い副反応が出る例が相次ぎ、被害者を訴える母親らが25日「全国子宮頸がんワクチン被害者連絡会」を発足させた。子宮頸がんワクチンの予防接種は、関連法の成立を経て国の定期接種に組み込まれる見通しとなっており、連絡会は国に対し、副反応症状の実態の公表や、被害者の救済制度の充実などを訴えていく考えだ。

同会の池田利恵事務局長(東京都日野市議)は記者会見で「子宮頸がんワクチンが本当にがんを減らす効果があるのか疑問。救済制度も不十分だ」と指摘した。同連絡会事務局は042・594・1337。

読売

ワクチン被害者の会 設立

子宮頸(けい)がんワクチンの接種で副反応を起こした女子生徒の家族らが25日、「全国子宮頸がんワクチン被害者連絡会」を設立した。接種後に体の痛みやしびれが出るなど重い副反応を起こす被害者が相次いでいるとして、国に対し、症状の治療法の研究・開発や、被害者に対する補償を求めていく。会員は、被害者と家族、支援する市・区議会議員ら約50人。

読売新聞(2013)3.26日

2013 3月

産経 (26)

子宮頸がんワクチンで被害者連絡会

子宮頸(けい)がんワクチンの接種後に重い副反応が出た娘を持つ親と支援者の約40人が25日、「全国子宮頸がんワクチン被害者連絡会」を設立した。被害の拡大防止を目的とし、情報を共有するとともに、副反応の問題を広く知ってもらい被害者救済を訴えていく。問い合わせは連絡会事務局 ☎042・594・1337。

日経

被害者の保護者ら連絡会  
■子宮頸がんワクチンで副反応 子宮頸(けい)がんワクチンの接種後に、重い副反応が出たとして、被害者の女子中高生の保護者ら約50人が25日、「全国子宮頸がんワクチン被害者連絡会」を東京都内で発足させた。

ワクチン接種との因果関係が認められず、十分補償されないケースが多いとして、今後、国に救済の拡大を求めていく。

日経

3月26日  
2013